

C-3. 「もっと大きな羽根の風車をつくりたい！」

中央幼稚園（島根県出雲市）

[5歳児]

遊びの構想と、実際の流れ 4月～7月

内容…

遊びの経過…**橙色**

教師の援助…**青色**

4月
自分の見つけた遊びを工夫しながら続ける

- ・買い物袋の風を持って走る「風が強いから上がるかなあと思って」
- 走らなくても飛ぶ物を作ろう
 - ・ペットボトルで飛ぶ用具を作って飛ばす
 - ・何回も繰り返し飛ばす「くるくる回って飛ぶからスライダーだよ」
 - ・いろいろな大きさのペットボトルを準備する
- スライダーを自分で作って飛ばそう
 - ・家からペットボトルを持ってきて作る、飛ばす
 - ・ペットボトルの大きさ、袋の長さ、投げ方、風の方向に気付けさせる
 - ・「もっと遠くに飛ばしたい」「さっきよりも飛んだのかな？」・メジャーを用意する
- ・家から紙飛行機を持ってくる。「僕たちも作りたい」
- よく回るかざぐるまを作る
 - ・かざぐるまが作りたい「回るときれい、走るとよく回る」
- ・絵本「かみひこうき」「かざぐるまのくに」を置く
- ・「いろいろなかざぐるまが作ってみたい」
- 紙皿、紙コップ、折り紙など準備する

『風になる』の体操をする

5月

風の遊びに興味関心をもって取り組む

風について調べよう

- ・風の子楽習館へ行く。かざぐるまを作る
- ・いろいろな風の力を試す（持ち上げる、吹き飛ばす、音がする）
- ・工作室の棚にいろいろなかざぐるまがあるのを見つけて、見せてもらう「わあ目が光った」
- ・風の力で発電することに気付く。風ぐるまを持って走り、回ると「発電しました」と喜ぶ

紙の素材、大きさを選んで作る（紙飛行機）

- ・きらきらテープをつける
- ・紙の大きさ、質を選ぶ

風の力に気付きながら遊ぶ

- ・いろいろな大きさの袋を準備する

いろいろな種類のかざぐるま作りに挑戦する

- ・花びらかざぐるま、からりんかざぐるま
- ・へびかざぐるま、ふしぎかざぐるま
- ・パラシュートかざぐるま
- ♪「風よふけふけ」を歌う

・もっと風が吹く所に行きたいなあ

風の強さを確かめよう

- ・オロチコンビから紙飛行機を飛ばすと滞空時間が長い「ふんわり飛んでいく」
- ・風がなくてビニール袋の風がふくらまない「幼稚園の方が風が強いじゃん」

よく飛ぶ方法を工夫する

- ・本を見ながら作る、飛ばしてみる。自分なりに折って試してみる。
- ・オロチコンビみたいに高い所から飛ばしたらよく飛ばよ
- ・風にのせるには風の向きを考えらんといけん「へび風ぐるままで風向きが分かるよ」

6月

風について興味関心を深める

全身で風を感じたり、風の重さに気付きながら遊ぶ

- ・斐伊川土手に行こう
- ・ダンボール、肥料袋を準備する
- ・ビニール袋の風が大きくふくらんだ「重たい、飛ばされそう」
- ・土手すべりをする「みんながすごいスピードですべて風になったがあ」

いろいろな素材でかざぐるまを作ろう

- ・クリアファイル、ペットボトル
- ・紙のかざぐるまは破れてきたね
- ・畑のカラスを追い払いたい
- ・ペットボトルかざぐるまを畑に立てる
- ・テラスのよく見えるところに飾る。「クリアファイルはよく回るし、ぬれても平気だね」
- ・今までに作ったことのないかざぐるまを作りたい
- ・「風の谷のナウシカ」の本を読む
- ・絵本「ジルベルトとかぜ」を読む
- ・「風の谷のナウシカ」のビデオを見る
- ・「風使いになりたいなあ」
- ♪『風になりたい』を歌う
- ・『ドラえもんふしぎ風使い』を見る



<p>7月 みんなで大きな風車を作る</p>	<p>一番力の強い大きな風車<small>ふうしゃ</small>を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗面器、ベニヤ板、水道管、パテを準備する 洗面器に羽をつけて風車を作る 「先生たちで作ったよ。回るかな」 「すごい、風が吹いたら回ったよ」 「僕たちも大きな風車を作りたい」 ベニヤ板を切る、電動ドリルで穴を開ける羽根をつなげる 	<p>風の谷を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 風を感じる保育室作りを考える かざぐるま、風鈴、かざぐるま、紙飛行機などを飾る 風車の作れそうな素材を研究しながら子どもと一緒に探していく。 (うちわ、ヘルパー、プラスチック、アルミ板、下敷き、オアシス、発泡スチロール)
<p>子どもの様子</p>		<p>教師の受けとめと援助</p>
<p>先生たちと同じ木をちょうだい 教師が作った羽根より大きいのが作りたいという。話し合った結果、グループで一枚ずつ羽根を作ることになる。教師は、線引きや切るのを援助していく。</p> <p>「ぼくたち、のこぎりは上手だけん」 全員が自信満々の表情でのこぎりに取り組みがいざ使い始めると「曲がった…」「折れた…」「難しい…」「切れない…」と、言う言葉が次々と出てきて、なかなか進まない。教師が、風車の芯になる部分を作り始めるのを見ると、また切り始める。 中心になるたらいに電動ドリルで穴をあける。 交替で握らせ、教師が手を添えて穴をあける。 羽根が切れたので、ペンキを塗り絵を描いて、教師が羽根を取り付ける。</p> 		<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの技能に適した芯になる素材がなかなか見つからない。また、羽根も下敷き、アルミ板など試したが、芯へ接着することが難しい。子どもの発想を生かしたいと思いながら、その方法が見つからないまま、子どもの方から教師が作った風車の材料をそのまま要求してくる。 この風の遊びの中で、成功体験を重ねてきているせいか、自信満々で製作に取り組む。初めての葛藤体験である。 直接体験を通して、自分たちが試してみても大変さが実感できたようだ。 少々困難な電動ドリルの作業だが、これまでに使ったことのない道具を見たり、実際に使ったりすることが、子どもたちの経験となりできたときの達成感となると思う。
<p>その後</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外に出す時に羽根が折れる「もう1度作り直そう」 「やったー大きな風車がまわったぞ!!!」 大きな風車の回りにいろいろな風車を立てる (うちわかざぐるま、ペットボトルかざぐるま、下敷きかざぐるま、クリアファイルかざぐるま) 	

まとめ <風と遊ぼう>の遊び・学びと「科学する心」を育てること>

「風と遊ぼう」の遊びの中で、子どもは、「あれ?」「なぜ?」と感覚を通して新たなことに気づき疑問をもった。また、「こんなのを作りたい」「〇〇かもしれない」「〇〇してみよう」と考え、試し、かかわることで「やっぱりそうだった」と分かり、満足感を得た。その子どもなりのやり方やテンポで繰り返し色々試してみること、その試す過程を楽しみ、友達や教師とかかわっていく過程を学びと捉えた。物事への気づきや思いをもち、考え、工夫し、表現していく過程は、自ら課題を探究し解決していくことへの芽生えといえる。このことが「科学する心」を育てることにつながると考える。そして、遊びの中での学びが生涯にわたる好奇心や探究心、生きる力を育てていくことになる。

ポイント

飛ばして遊ぶいろいろな教材を作り、使って遊びながら風を感じる経験をしました。かざぐるま作りは、「よく回る物を作りたい」というめあてで追究していったことで、風を受けて回ることや場所によって風が違うことを感じとり、「風を調べる」という展開につながりました。風の「強さ」(重さ)「速さ」を体で感じたり確かめたり、体で風を起こしたりする姿が引き出されています。そして、回り方や飛び方を言葉で表し、「よく回るには?」「よく飛ばすには?」と考え、材料や作り方、方法を工夫して試しています。自分たちで製作することで気付いたり納得したりしながら、追究することを楽しむことができました。

そして、風力を利用する風車(ふうしゃ)へと興味が広がりました。今までの経験から、風を受ける羽の作り方や羽の大きさにより回り方が違うことなど共通に理解でき、更に風の強さや力、回り方などを期待してみんなで力を合わせ、自分たちで大きな風車作りに転換した姿から、「科学する心」が育ったことが伝わります。